

令和4年は、ロシアのウクライナへの侵攻やさまざまな事件・事故、新型コロナウイルス感染症の流行継続等があり、激動の1年でした。学校生活も、新型コロナウイルス感染症への対策を必要とする中で、学校行事の形式を工夫して実施したり、オンライン授業を併用したりと影響を受けました。まだ普段通り、という訳にはいかないことも多いですが、冬休みは1年の疲れを少しでも癒やして英気を養い、新年・3学期を迎えましょう。3年生は、体調に気を付けて、進路実現に向けてのラストスパートをかけてください。



探究学習発表会

12月16日

12月16日(金)5～7限目に探究学習発表会を行い、2年生が発表者、1年生が聴き手として参加しました。2年生は49班に分かれ、設定した課題について、情報収集や分析・検証等を通してその解決に取り組み、考察や方策をポスター発表という形で伝えました。課題は、提示された複数のテーマから班ごとにそれぞれ選択して、設定しています。各班がAグループ、Bグループの2つに分かれて、交互に2回ずつ発表を行い、聴き手は発表について質問や評価を行いました。「レジ袋有料化の意義とゴミ問題の現状」「漫画の分岐点」「郷土料理継承の現状と対策」「発展途上国の汚染水について」「食品ロスを減らすために」「緊張が与えるパフォーマンスへの影響」「医療問題」「地球外生命体、いるか?いないか?」「未来の和楽器の達人」「牛乳の力で豊かな自然を」など、多岐にわたるテーマで探究学習を続け、発表時には、クイズを用いたり、実演を取り入れたりするなど工夫が凝らされていました。

当日は、「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」の運営指導委員・コンソーシアムの先生方や他校の先生方も来場され、今後の取組についての助言もいただきました。



2学期終業式

12月23日



12月23日(金)3限終了後に、2学期終業式をオンライン中継で行いました。校歌静聴に続いて、東校長がスライドを映しながら式辞を述べました。サッカーワールドカップ日本代表のキャプテンとして活躍した吉田麻也選手の、授業を大事にして独学で英会話を学んだ経験を挙げながら、明確な目標・展望・ビジョンと、簡潔・シンプルな方法、その継続が大切だということを伝えました。吉田麻也選手は、プレミアリーグでプレーするという目標を持ち、時間を無駄にはもったいない、英語ができれば簡単に仕事の幅が広がる、という強い思いから、高校時代は「英語の授業では絶対に寝ない」ことを心に決め、実行していたそうです。また、「英語になるべく触れる」ことも強く意識し、通学時間は洋楽を聴く、洋画は吹き替え版を見ないことなども心掛けていたとのことで、新年を迎えるこの機会に、明確な目標と達成のためのシンプルな方法をしっかりと考え、それを実行していこうと語りました。

終業式後には、8月以降に顕著な成果を収めた生徒の皆さんの表彰を行いました。第31回全日本高等学校女子サッカー選手権和歌山大会優勝サッカー部女子の皆さん、「マリンチャレンジプログラム関西大会」優秀賞3年5組寺地航琉さん、第77回国体レスリング競技 少年男子グレコローマンレスリング60kg級第3位3年2組高塚恒輝さん、第12回大阪成蹊全国アート&デザインコンペティション大阪成蹊大学学長賞(金賞)3年4組山際小麦さんです。この他にも多くの皆さんがさまざまな分野で活躍しています。



さらにその後、生徒支援部副部長から冬休みの諸注意がありました。1月5日までの冬休み、体調には気を付けて年末年始を過ごし、気持ちも新たに3学期を迎えてください。